



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和5年12月22日

今年度の探究の成果を発表



3年次「自己表現」発表会



2年次進路類型別探究発表会



1年次探究発表会「教育」ゼミ

12月に入り、各年次の探究活動の発表会が相次いで行われました。3年次は選択教科『自己表現』での帯広市役所地域政策課と連携した授業「まちづくり」のプレゼン発表でした。公共交通について探究を深めたグループは三条生にアンケートを実施。混んだ状況下で乗車を拒否された経験を持つ生徒がいた実態からターゲットを高校生と高齢者に絞り、その利用時間にあったバス運行を提案しました。市役所職員から「生の声が聞けたことは収穫」とし、高校生の等身大の提案に耳を傾けていました。講評して下さった北海道開発技術センターの竹口祐二さんは生徒たちの提案を評価したうえで、「こんなサービスがあったらいいという提案が共通していたが、現状をどう工夫すればいいのかという視点もあったらいい」とアドバイスしてくださいました。

2年次の「進路類型別探究発表会」は体育館でポスターセッションの形で発表しました。その数は実に63。「来年の学校パンフレット作成計画」から「看護の光と闇」「遺伝子組み換え」「幼少期の遊び方と身体能力の関係性」まで幅広く、そして深くそれぞれのテーマについて発表していました。

1年次は「地域」を共通テーマとした探究活動です。昨年度の反省も踏まえ今年は9つのゼミ形式で探究活動を進めてきました。それぞれのグループでのプレゼン形式での発表となりました。

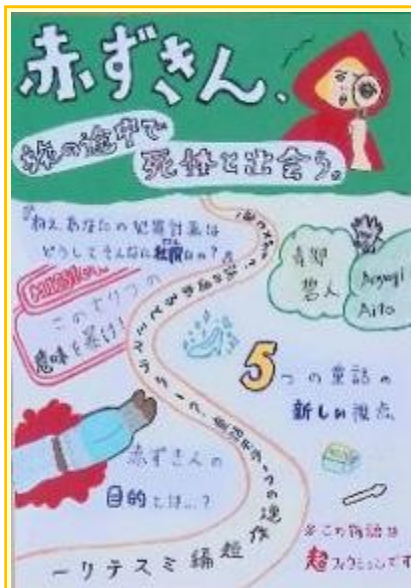
発表を聞いた外部人材の方からの感想

・短時間で伝えられること、伝えたいことを生徒さんたちと向き合うことは難しいと思いますが、「地域の課題なんだ」と理解し考えてまとめてくれたことが本当に嬉しかったし、私たち大人も頑張らなくちゃと引き締まる思いでした。
(医療福祉に参加)

・美術館に足を運んでもらいたい長年の夢を課題としてとりあげてもらえたことは私も嬉しく思います。高校生の感性が豊かな時代に美術館に来てほしいと本当に思いました。人と違う感覚、見え方や捉え方を受け止めて人と人とは繋がりがあい、許し合っていくものです。素敵な機会に呼んでいただいて対話ができたことを嬉しく思います。
(美術・アートに参加)

・我々の自信溢れる商品のパンをさらに輝かせるよう考えて工夫して、実際に作ってくれている様子に心が打たれました。ほくも食べてみたいです。そしてフェス！来年もやりましょう。
(地域貢献に参加)

・「公欠になったらできるかも」から始まったSmileyの子たちとの交流。仮説をたて、結果から考察へととどろついたこと、とても嬉しく思いました。また、そこから日常の中で声を掛けてインスタでつながったり、一緒に卓球の大会に出たりということもありました。紙面や発表だけではなく生徒さんたちの生活の中でそうなっていることに感動しました。
(教育・スポーツに参加)



図書館・中村さん、POP全国大会出品へ

みなさんは本屋で本の脇に内容を紹介した手書きのカードのようなものを見たことがありますか？あれがPOP（ポップ）です。「Point of purchase advertising（購買時点広告）」という英語の頭文字をとってできた言葉で、おすすめの本を紹介し、手に取ってもらう工夫を凝らしたものです。それを競う「ほっかいどう高校生POPフェスタ」で、図書館の1年3組中村莉子さんが入選し、全国高校図書研究大会に出品参加することになりました。中村さんは「工夫した点は、タイトルを大きくし印象深くなるようなイメージを持たせたこと、イラストを画用紙で作り読者の目をひけるように目立たせたところですが、全国に作品を出品することができると思っていなかったので素直に嬉しいです。POP制作は図書館のお家芸なので、今後も力を入れ頑張って作っていきたいです」と喜びを語ってくれました。中村さん紹介の『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』は只今、絶賛貸し出し中です！

節電結果

今回は昨年を下回る結果となりました。ご協力に感謝します。教室から最後に出る人が電気を消すことを徹底して節電に努めましょう！

一昨年度	17,717 kWh
昨年度	14,574 kWh
今年度	14,487 kWh

第34回 3年次付・剣道部顧問 金澤啓史教諭

インターハイ運営にあたってくれた三条生に感謝

◇インターハイ運營業務にあたってくれた本校生に感謝
インターハイ運營業務にあたってくれた生徒たちは、本当によく動いてくれました。状況を確認し先を見て、今自分が何をしなければならないのかを判断して行動してくれました。剣道専門部の先生方や審判の方々からお世辞抜きのお褒めの言葉を沢山いただきました。改めてありがとうございます。そして、開会式にあたってビデオ出演してくれた合唱部と吹奏楽部の皆さんにも、大会を控えているにもかかわらず協力していただいたことに感謝です。今まではCDだけを流すことが多かったのですが、ビデオ出演という方法に対して全国の先生方から「素晴らしい」「こんな方法もあったのか」と大きな反響がありました。

◇市役所での勤務で感じたこと

私は36年前のインターハイも経験しています。といっても教員になった頃で、生徒たちと一緒にストップウォッチ片手に試合の計測係をするだけでした。まさか自分が次のインターハイで中心になるなんて夢にも思わなかったのですが、様々な偶然が重なって再任教員である私に地区担当員という役割が回ってきたのです。

市役所での勤務は当たり前ですが学校とは全く違います。市役所の方々は細かな仕事を実に丁寧に、かつスピーディーにこなしていきます。与えられた仕事や役割は素直に受けてそつこなす。そして指示を待つのではなく、自分で考えて動いていく人間でなければ通用しない世界です。そういった積み重ねが人を作っていくのだと改めて思いました。市役所で活躍する三条の卒業生たちが実に自信に満ちた素晴らしい表情で仕事に当たっている様子を見ることができました。

◇高い目標を求めたい

私の教員としてのスタートは広尾高校での講師です。講師でありながら様々なことにチャレンジさせていただきました。中でも2年目の夏は一生忘れられない思い出になりました。広尾高校野球部が36年ぶりの北北海道大会出場を決めたと思ったら、あれよあれよと甲子園出場を勝ち取ったのです。リアル『下克上球児』でした。生徒たちはプレッシャーに押しつぶされることなく、チャレンジャーそのもので決勝を戦っていました。思えば、普段の練習から優勝した時の行進だと言ってダイヤモンドを回り、校歌を最後に歌っていました。夢を夢として諦めるのではなく、本気で追求めていく姿勢があったように思います。

私は広尾の後、鹿追、足寄と小規模な高校に勤務してきましたが、そのどちらでも、高い目標を掲げて休み時間や昼休み放課後と、先生をつかまえては色々質問する生徒がいました。現状に満足せず、高い目標を掲げて普段の生活からそれが当たり前になるよう行動していました。そしてそういう生徒たちはきまって最後には進路希望を実現していきました。

三条生は本当に素直で素晴らしい資質を持っています。でもあえて言うのなら、チャレンジ精神が少し足りないように思います。貪欲に高みを追いかけるハングリーさを三条生に求めたいですね。その時どこまで伸びるか。多分私の予想を大きく上回るような気がします。期待しています。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

インタビュー

キラリ

カーリングで世界を目指す

2年2組 市山ひおりさん 2年3組 市山ひまりさん



三条高校生にカーリングで世界を目指す人がいます。2年の市山ひおりさん・ひまりさん姉妹です。彼女たちが所属するチーム十勝JCC (Jewelry Ice Curling Club) は昨年度、北海道選手権予選でLS北見を破っての4位となったことで一躍注目の的となり、さらに全国高校選手権大会で準優勝を果たした二人にインタビューしました。

昨年度の活躍を振り返ってもらった、ひおりさんは「北海道選手権は一般の

カテゴリーなので、決勝トーナメントから10エンドになるのですが、やはり体力的にきつかったです。そこで今年は筋トレもしっかりして中身の濃い練習をしています。目標は全日本ジュニアで優勝して世界ジュニア出場です！」と力強く宣言です。昨年の実績からすると十分行けるのではないかと思います。二人は声をそろえて「カーリングは何が起きるかわからないんです」と言います。「私たちも世界ジュニア優勝チームに圧勝したこともあれば、年下の経験の浅いチームに足下をすくわれることもあります。それがカーリングの怖さでもあり魅力でもあるんです。ですから小さな子から年配の方まで、本当に年齢層が広い競技なんです」と言います。そんなカーリングとの出会いは小学校5年の時とか。「私たちが住んでいる音更町のこども体験隊でやってみて楽しいなと思ったのがきっかけです。ちょうどその後、平昌オリンピックで銅メダルを

取ったのを見て二人でやりたいと思ってカールブックス帯広(清流にあるカーリング専用ホール)に行きました。中学生になって今のメンバーでチームを組んで本格的に始めました」とひまりさん。二人のどちらが、ということではなくどちらもカーリングにはまっていったのだとか。「だいたい好き嫌いは一緒なんです」と二人で笑います。カーリングの魅力についてひおりさんは「カーリングはやってみないと本当にわからない競技です。男女、年齢を問わず対等に戦えるスポーツです。リンクをつかんだ方が勝てるというのが面白いです」。続けてひまりさんは「4人の力を合わせたのチームプレイです。作戦を立てて、ストーンを投げて、スweepするというみんなで一投を作っていくのが楽しいです」と言い、「4人の役割があります。リードが最初に投げるのですが、そこで氷の状態をしっかり把握してメンバーに的確に伝えていかなくてはなりません。もちろん氷の状況はどんどん変わっていきますのでそれぞれがしっかり次の人に伝えていくコミュニケーションがとても重要です」「作戦は常に先を読んでいきます。もちろん自分たちや相手の結果によってどんどん変わっていきます。それを考える中心はスキップ。スキップは偉大です」。リードはチーム主将を務めるひおりさん、ひまりさんはセカンドだそうです。「カーリングは技術や体力はもちろん重要ですが、伝え合う力がとても大切なのです。だからオリンピックも一人一人の選抜方式ではなくチームで選ばれます。言わなくてもわかり合う、あうんの呼吸というものが間違いなくあります」。その点は大丈夫そうですね。

明日23日から北海道ジュニア選手権が始まります。彼女たちにとって世界に向けた挑戦となります。頑張ってください！

